

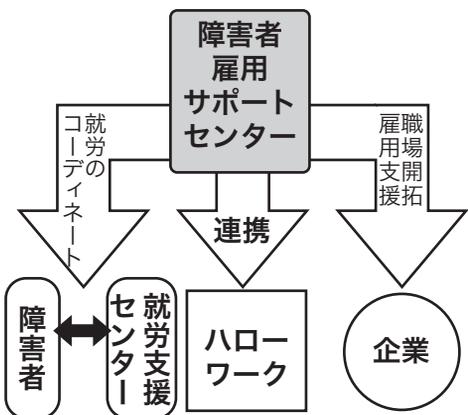


障害者雇用対策が前進

全国初のサポートセンターが開所 職場開拓に県が取り組む

障害者の雇用を促進するための新たな試みを埼玉県は開始しました。五月末に北浦和に開所した「障害者雇用サポートセンター」です。

名前からするとこのセンターは、障害者の就職訓練をする所を連想しますが、そうではありません。センターの職員が県内の企業を



戸別訪問し、「こんな仕事は障害者に向いています」「ここをもう一工夫すると障害者が働けます」といった提案を行い、新たな障害者雇用の場を営業開拓する仕事

がメインの業務です。そして創出された求人枠が市町村の障害者就労支援センターやハローワークを通じて、就職希望の障害者に届けられる仕組みです。このように、県が障害者雇用の場を開拓するのは全国でも初めてで、意欲的な試みとして大きな期待が寄せられています。

既にセンターでは開所以来二カ月で四十件の企業に具体的な雇用策を提案、ト

ライアル雇用などで二十二

人の方が働き始めています。私も障害者雇用について

はこれまで何度も議会で取り上げ、県の取り組みを促してきました。今回のセンター開所をととても嬉しく思うとともに、その成果から期待しています。

(障害者雇用サポートセンター) 電話〇四八・八二七・〇五四〇、さいたま市浦和区北浦和五・六・五 浦和 地方庁舎別館1階

県税収入が過去最高?! 手放しでは喜べませんが...

県の台所事情に少し明るい兆し。平成十八年度決算の県税収入が過去最高の六、八二四億円に上る見込みとなりました。十七年度と比べると約五四二億円プラスで、バブル期の平成三年度の過去最高額(六七八九億円)を三五億円上回り、十五年ぶりに最高額を更新しました。

増収の主な要因としては、自動車関連産業や銀行の業績回復による法人県民・事業税の税収増と税制改正による個人県民税の伸びが挙げられます。また納税率は九六・〇

%で前年度を〇・七ポイント上回り、少しづつ改善しています。

県税は増加傾向にありますが、団

塊世代の職員への退職金や県債など借金返済もあり、手放しで喜べる状況ではありません。今後、県内経済活性化を進めて税収が伸びる仕組みをつくっていく必要があります。



夜間のごどもの急病に「#8000」が始まりました。

小児救急医療対策の一つとして公明党が提案してきた「#8000」が六月からスタートしました。

夜間や休日の子供の急病

について、家庭での対処法

や受診の必要性について看護師が電話で相談に応じてくれます。電話番号は「#8000」。携帯電話からでもOKです。

受付時間は、平日午後



七時から午後十一時まで、日曜・祝祭日午前九時から午後十一時まで。